



高

札

子

巻

巻

中村俊定文庫
文庫 18
341



千歌
仙
高判
題し
本



松島書社印

机墨菴印譜

加茂川 三十、	住江 二十、	倭 十、	九 五、	長 二點
三笠山 百、	鳩峯 百、	睡猫 百、	稻荷山 十、	以津久志満寺、
	一夜松 五百、	金齒 三百、	武藏野 二百、	二見浦 百、



北野聖廟の似かたを供く語客八十餘に及ぶ
 其處を興り北野天満宮境地一夜松陰古刹架造の
 字を千五部とて千五部仙満座

每句お寺を因りて以下皆同

北 為浪の上より海人乃浮沈之 巴東
 天 宗満子有るも遠し 都 富士 奇晶
 満 建於穴より 水くお 惚 魯水
 漏針小習ふくぬを引へる 銘子
 今より全利もそののより 宗専

宮 糸子もあつたの雇ひ家母 鈴賀
 地 才隆の市後也を原土就 百絮
 夜 三悔如吐子 始六八に就 嘯山
 菅乃中へ 消涙人鬼 貞肆
 松 恒結ひ廻を 氣向の伏 管子
 萩考つ火の 消音 岬 百絮
 歎 之ろろ八大本と ぬをきく 嘯山
 古 道一筋燈塔の 名結ぶ物樹陰 宗專
 稀 やまはしも 意如鐘舟半 課也 魯月
 空の時先望 終く 採満あり 湖掌

是 少く有りく 之もかろき 海如雪 嘯山

右睡猫之印

野 宵もやぬ身乃 鏡見く 前玉
 地 初雷乃 庭下 分 別 土髪
 夜 母形のふつ 山名も 志る 乙女者 嘯山
 賀 橋咲 吉山 多如 餅も 家 美玉

右鳩峯之印

野 懐く 行くと 雉子 住く 嘯山

天あさ、命を知らず不心中武然
境舟の月交々細も法度なり
地怪象も幸ひ雨降る後
夜おとひ来いと去る家也こ
陰足ぬ世の友を回語るに於
賀九十三騎、皆不方足
九穗 賈友 八百彦 百繁 儿圭

右三笠山之印

北界公殿の侍重く登る
天若鏡の裏乃 蝶車
其鎮 夜

宮侍おる子私歌紅法志流
一換換となす何はさき法時
夜建ひ子姑名に碇り水以
賀古来抄す何後將も産
建ちくや雲衣小孫くら抱
荆玉 宗雪 荆玉 荆玉

右二見浦之印

満天及と冠物危子、常山
境森々語涙物く近江の壁一重
一かもへも起語送起言台
陶泉 常山 陶泉 常山

著 貸ふきぐ花のまきり 能くぬき家 蒲浦

重きう上は結納しててあ 仙臺京連 朱角

結ひ言ふ味方、原は志の信 寸直

来世よりりり 寺子産生 楓江

妹宵山雲は陣日と 諸ふ契 魯水連 路大

若衣の区より 古と 煙ふ 式封

空をみ加減はつじし おふあめ地 百紫

瓢箪をぬきく 乾物と 苳の香 鶴里連

雪の初み 奈りあくと 小雛燈 湖掌ま

十若くつと おめふ 出きり 百足連

お花を出る 慶あ毛 夢を信被 至冷

ひさしは 心掛り ぢま 二世 日連

出陣の 禮を 抱ハ 心やあを

人丸は 社と 霧の 然 中

能くぬき ぬき 祓の 名下 因 近 寺 武 然

今より 辰を 廣う ぬ 綱 五十人

若きき ぬき 一り 一夜を 泣けし 一舟

飛天ハ 男を 一り ぬ 初里を 桃 咲

若子り 癖の 外へ ぬ 凱へ 宇 告

結中の恒破き 福力 花唱
 福のぬくまのまゆ 修りも 雁嘴
 萬葉子 福まのまゆ 出来札 吾計
 歌子ハヤとありまの加田の歌 湖鵲
 鷹の友ハヤとありまの通 武然
 ひつりまのまゆと語まのまゆ 顧山
 手物まのまゆとまのまゆ 潤水
 手物まのまゆとまのまゆ 徒遊
 木子まのまゆとまのまゆ 如是
 行商の時 侍と 尺へ 席冷

浮舟や壁舟耳船まきし 向ひ 魯水
 宵色まのまゆ 登船 名目
 下し船の包り 平ま 揺り 臺 音晶
 心かゆく 夫の層ま ぞつと まゆ 暮水
 野 清水も 鬼住と 中 笑せん
 白 引裂 紙も 月乃 枝折 石 蒼舟
 花くまの 一重 江中も 目之 富士 久豪

右 睡猫之印

底を 舟の 舟も 口を 未曉

杉葉より一歩妙酒の寺と行の 比直
麦心より還俗を安め志のくも 新島
世を捨てたうも 雪 限子歌 願山
裏表なま中 名物ハ富士 年終

右二睡猫

野 松系よりぬくち、極 楽 南水
野 系ハちやきと 抱きふて居る 系 晶

右武蔵野之印

六系短甚下の句と短言を以て高判
候一旬と又ハ書記の字根ハ多分
可驚系ハ許成不也ト一を察す

千五百哥儂合高判

新日子態の相も 分 初 旭 公
唐なき國も 冷き春を 知 巖 水 公

師走の旅と多々 牙 儿在
 秋とつま〜 眼の言好乳母 里鶴
 何事多や〜 錦衣を新衣し 寛石
 河津船〜 子産む三月の餅 片路
 天の代や赤と紙舞紅子八景 故郷
 山寺乃赤何子配る 雲之草 穠舟
 今〜 峠家信 赤 括 白路
 望遊〜 後家結 丸 盤 奈良 絮風
 碧米煮 煮る 書も 夏 渡 琴之
 松と〜 八咫君 然る冬牡丹 百紫

漸之秋裏と中宮結く〜 水里 陶泉
 根と咽〜 さぬ〜 起ん湯忌乃種 和水
 南乙八村と〜 米高 白米何物 怪爰
 嘆拂〜 相伝〜 さ〜 廟子 管子
 告縁と針〜 煮ふ 新 糸 湖掌連
 雷と山〜 煮を 法ふ 雨 煮魚
 病の〜 因法師 白 丸 常浦
 夢の 夢止〜 楊 子 富水
 多〜 ち〜 結思を夜〜 や〜 つ夜 嵐除
 ま〜 ぬ〜 ぬ〜 流 新〜 掌 其雀連

舞ふ皇時々喜の出ハニ世 山流
故下僧人々々はる 喜妙尼 富保
取心ちつ々 像 還 信 船子
春より回リ水宮 園如名水 陸徳連
牛より馬乃乃まき 五月雨 暮水連
麻より君の奴々 指子入札 森雄
面を振事ハま々 能 蝶 健云
一考々 諸人のそめ 却々まは 龜翠
八算々 筆 塔 忍乃救 作吟
以々好指々々々 遊心借座 函文

神國乃々々々 悟生 還 信 鯉勢
唐土結子を苦々 する 墨衣 淡水
うまめめめめ 水々中を抱き付 謝師
枝川の以才々々 法歴斗結 結 未航
鶴々々 子々 心々 江中 羅職
悟心の寂々 始子 消め 空 一誓
薙刀結々 可々 袖々 三々 目 西馬
舟刀乃向ふへ 廻 氣 足 才 法水
顔々々 紅 葉 替 へ 戻 々 手 十寸人
一生を人の為々 花 一 木 夏文

酒息々髪括々葉連ひ 土髪
 白月々半々水々料理場 其蝶
 浦々如恣者叶ひし 大鯨 賈叟
 内出々ふ白 山神乃葉登 (尋士
 有狂者々々美人々々也 柳處 魯水
 生々々々幼者々々 ~~海~~ 海々々々 孟九
 入唐も止春り遊能旅未ぬ 楚雀
 飛返々々 月と 遊能 音 夷 仙李
 羨亦若志子々々多形々々也 若房
 次一物うふ外生島外也 杉翁

巫女の化粧女 遊々 古 柳 故郷
 思葉 様と ささ 侍 了 七 記 龍勢
 清純さは 一 人 言 皆 留 守 定音
 自然著る 影 南 能 連 ひ し 中 村 左 泉州
 吾 理 亦 子 々 々 の 子 々 亦 也 琴 子 成 管子
 悟 兼 二 ぼ 々 々 本 名 々 々 呼 雁 嘴
 佳子も 目一 遊 能 の 鬼 中 あり 嶋 友
 影の 皆 人 縁 々 々 あり の 小 人 也 大 守
 神子 々 々 也 卷 々 々 々 園 香 五 律
 内 澄 々 々 損 々 々 々 佛 性 武 然

後摺も書く處乃神主 武然
末能花紫衣の被るる鋪 全

右睡猫之印

律義の書く世界、格なり
奇合結座也立る、歌未なり
互に詠し 遠き如き 判 顧山
揚家也書し 也 足守、佐 衆政
測るるえ 如き 入 年 珍興

子言長乃判 刀子 鬼 富保
遊行結抄も二枚なり 歌 高冠
出書生し 一つ 増 辨 桃峯
佛の尻も 也 也 蝶乃 日 文誰
言解やと 也 也 也 無恥なり 喃山
世を度る 力の存りも 承報成 雅因
下をひのりも 也 也 也 他所の 後為連
奈り、付る 里、 麻、 康 文豪
奇最進の家 田空 似 城 珍志
奇奇を請るる 也 也 也 也 也 金芽

右の法華宗の正成張賦
 能くも昔々時のく敬り水富隆
 志の縁と云くは口舌の業に無り旭
 縁に因くは縁に男あり梅唇
 塩くも廟事ハ瘡も哀れなる婦
 表事も書乞ふは骨乃音嶽
 昔生の恥も志嘆りり初棹警
 是蘇み生れ諸誓迄生れ神里
 割接く居る初福ハ也如扇
 殿のきくは因く化も神可笑

右武藏野之印

若手毛因由之姫家有り良道熊楚
 当代二世々契の人也秋田漆鳩園
 水乃沸振厚衣習老小舎汶水
 雲水如身もく人結土直行仙臺江刺柳條
 小刺とくハたす姫江下子秋田漆富人
 唯ふと紋と初をく志東
 味方とおまふ占乃本梅雲
 引列るく取りて眼を縁才切榊條連

新血之目... 總 芙蓉坡
 錦之谷... 金羅 富流
 通之矢乃... 浪花 几草連
 欠落の後... 浪花 几草連
 川中唯... 浪花 几草連
 丸裸... 浪花 几草連
 口説... 叙夕連

右金齒之印

真方... 阿誰

吾金齒睡猫合印

以下賦物 每句上三歌也

福遊女... 肅山
 弓素... 奇仙
 花遊... 管子
 雲八... 松子
 佛日... 稻太
 奈正... 巴東
 角丸... 需浦
 玉堂... 文豪

恥 何くかろ 下く道 日 媛 忠 土 髪
 尾 結りぬい 序 玉 孝 鯉 勢
 請 物 未 ありし 天 洞 我 神 如
 後 志 も 美 やく 至 生 如 ありて
 歴 棉 を 着 せ 笑 心 木 保 扇 川
 雪 空 へ 去 り ま ぬ 花 の 塵 土 髪
 是 者 比 中 を 喧 嘩 八 消 へ 橋 の 上 如 砾
 葉 縁 へ 結 ぶ や 任 へ 如 神 狸 雨
 骨 火 乃 丈 を も 引 振 玉 磨 波 笠
 幽 ふ さ ち ち ぬ せ 世 を 遠 き 川 寒 骨

赤 子 泥 けり 音 鳥 柴 洞 如
 欠 落 を 見 采 り ち 梓 弓 玉 如
 仰 の 姿 けり 乃 目 へ 三 好 指
 さ さま ぐ 赤 子 の 美 見 能 ち かく

右鳩峯之印

丈 婦 と 互 懶 子 ち ち 若 子 鈿 車
 と けり も ち けり ち けり 片 ち 地 雁 嘴
 鏡 や ぐ せ ち 人 参 と 止 寒 骨

意欲ははたかた人をも事ある付に 裡雨
思ひ乃 園ハ 曰りは 語るに 所
能くは 言ふに 是ハ 精進日 云然
木かき 乃夜子 志るも 如利生

右三笠山之印

石山 志転る 多き 昔生 常山
亭の ちり 一 亭 庚日 連ひ子 秋水
信乃 悟業 結白へ 出り 宗専
各 理ハ 掃せり いぢる 宗専 蝶車

名目 今 登る 物も 故郷
新ハ 山を 思ふ 本 扇川
志る 今 中 好 味 ちり 却る 了 蹄
事ハ 好ハ 家 終 子 歌 ね 咄 心
上 戸 の ひ 一 素ハ 柳 經 雁 嘴
命 の 歌 も 心 丸 隈 子 園
唐 寺 も ひ 一 所 是 へ 柔 麻 土 髪
ゆき の 目 と 同 切 り 肩 行 の 暮 水
一生 也 情ハ 無 事 又 入 菫
名 子 も 埃 の 海ハ 観 心 指 太

田樂の跡より山居の跡より
 与ふら出居と一先満く事
 三世如中く甚と飯乃世
 あり安樂事奢能金堀
 舟の跡を精進より何
 我理も少くも欠く事云
 戒も破つて又も海境悪
 管子
 秋水
 鳥曉
 張賦
 武松

吾二見浦之印

若くは之如聖ありハ残き名
 呼ばるる後細く書たり
 晴子婦より乃財も本望
 ともか人多老を見たり刺骨
 又肯く珠塔のまき道さる尚
 物々穀よりき好能箱
 推物よりさるるる戻り足
 態也子誤能息へ矢と立流
 世のゆりし海と名長く何
 大名乃子母より如母
 賢雅
 一樂
 婦
 松睡
 糸也
 秘石
 河丈
 山流
 如是
 万互
 土髮

記名の小刺は子ぎらぬ
 山 富の
 佐城如功経と記看經
 比美達理といさう山如程
 佐卷
 物志り、ちりて談合、
 細車
 摺、付んとす少を、
 土製
 友一、之廣、て下司、
 泉牧
 象代、み成、身、
 止 孫志
 歌、
 如砾
 呼、
 子口 鶴愛
 谷、
 井詰

向、
 細車
 能、
 寛留
 呼、
 鈴里
 立、
 末峰
 物、
 敬之
 還、
 武結
 請、
 子觸、
 二萬の里、

右睡猫二印

度舟も笑ふ水も笑ふ二度舟買 錦城連
 先樂特子 出ま 名物 隻虎
 何子也 轉之舟 水多 水老水 子園
 根回 吉 温の 白 根 根 百五
 至極の 聖 嘴 隣 びつ 根り 提山
 吾衣上 座 多 了 子 家 事 筋 以主
 連、一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 八鹿
 欠 産 若 水 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 珍志
 福 お も 不 變 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 武松
 國 者 能 舟 子 天 祥 樂 右 鼓 一

和知く 能上、 紙 夜 する 如 海、

右武蔵野之印

呵、 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 稻太
 家 督 如 者 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 急 派
 お 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 嘯 山
 判 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 糸 已
 冥 加 子 叶 比 底 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 武 松

右五車

金齒之印

吾修業より金齒の印より一紙白
か海月の字の如く加筆は白く書
業より水と高く記す

他郷

南紀百歌仙連

博と心ふたれを足付ふいそりし居 楮林

命をうりハ六波羅如 恩 熊野 戸榮

怪草切吉野中人 畧 全

佳位あり 指出か縁り、鞠武

談合をいふ 帆舟浮心風、中琳

待儀色より紅 霞色の伯母、高峯

撞如り 草花如水筋 冬作

雲を初と名や洞壺ん 乙川、五号

比丘居る 砧より起世如るん 楮林

解砧無 南 西 月 三つ 男 流科

川へ推りき世へ戻り人へも 柳琴
材木の流き好磨る冬模 雲郷
皆戸くも来り之月如家 舎意

秋田湊卅六歌仙連

女乃意地能書小下り 祈水
本名せくくむつり 祝特語 祝紅
祇名流勢 入お乃鐘 百和
昔某の何日 寸へ中宿 汝水
皆く悔り如肉く起出る雪果報 紫里
聖乃嘆り 打ち来あり 以石

曇りかこ津毒三保く道留 李事
徒也毒をい能吹能能者 一氣
初ひ好なり 磨好如里 探雨
思案の出好と勢来如り 高秋
詠ハ才牙 海へ 暮 歌舌
誰難く好し 次磨のくら岐 雪生
くそく心物と誅の誓なりん 牛且
奇空梅や以才り尖る梅の春 五桃

羽州能代卅歌仙連

才りと變半日 暮 漢千

吸付りふく世百七寸 渦舟
 名所おどろく中玉西はし 秋及
 足すまじや 雪を 怪
 珊瑚の夢も水と乞 食 富柏
 幸の光りといへぬ眼のしんか 飲茶
 世乃中とあみ油結ちく持 和風
 臣まじ皆醒事 松のか勢 桂子
 小淡に鬼乃船心結結雪 紫山
 紙層の流きや清くく菱乃花 秋田城下 香山
 善くまじと昔の京乃白ひ習、流河

柳と古今へ度るま川 旅 福原 梅史
 清祕我も花乃をりく結 勢山田 霞醉
 懐筆くまじとまじとく地思ひ 勢 素文
 希袋を笑ふ若麦好く振、掬之
 之くく松平と中とくあま習子 江葉園 魯陽
 月く遠懐の結白くく乃 花 仙符神式 巴調
 乃くく柳くあり五月菊の塔 南部 白扇
 奇松風や夏の氷を 刀 研、 清渚
 かまふまじハ歌ひ結滅く好諸ふ数、 乾衣
 はちくの花を返くく 欠落、 素夕

後三十一

兵法結一旨く子法度書 秋田湊 東

一人お歎ひし何れんこる 日久保田 梅葩

紅うらや落生る若乃推交 仙臺

花ハ三月 二十一日 青羅

奉つる並ふ稔極る 月 妙沙

結由を變じし小や詠ふ人 角巴

空早し詠ふ乃 兔 歌 字等

付多し亭 初瓶 重と起 木厄

手寄負ふふと尺と起物付 辞角

片役美あり 後 朝 結 傘 苅洲

發 別 音 如 筆 走 石 起 富

序 引 時 走 入 雨 日 未 操

羊 子 老 尺 走 入 花 乃 与 野 成 肥唐津 百又

重く事し傘占ハ 智恩院 草津 連中

交し折ると 信子 泣し 古 江木戸 葉溪

寄 借 たり 也 寄 娘 先 之 天 竺 川 尾鴨海 淡叟

情 吟 乃 二 少 乃 若 妻 傘 人 外 家 蝶 性

而 体 之 仇 命 之 主 娘 一 葉 乃 好 若火居

松 枝 之 下 結 走 入 こと 土 破 柳條

舞 子 乃 乃 乃 上 乃 結 乃 事

河内之生世百志の米播位保社 播音

氏種之深乳の了法一ふ而江船川 鶴友

め至能巨徳之丁稚 極楽浪卷 几骨子連

難かき月もたふ之雪 夷積金毘羅 榊山

任君を登之去白徳之法日丸亀 安之連

眼水之兼能彼毛之主八さ常盤間 一誓

商人の絹着之出乾 茶如空江日野 紫残

於能下之各所出之如白下越教習 右柳

書能多水香 拙而多清交月相和因州 為郷

氣味乃書之 老如危丁寺名 白枝

能境習 祈り 分給、

藤の在へ落音 消あり 文附日伏水 百蟬連

右睡猫之印

花ありし本讀人といふ人さるる事南紀 流斜

能ゆも去るに貫るる如く人々名 紫泉

名之書し如く己の傳り生る慈照 閑志

誓能下 神をのせ如 丸山秋田 喜笑

富原野寺のま水あり 旅、桃園

徒癡を識る 依分 根、紫陌
 推子以襟子 忠盛如秋、一膝
 泊きや 社をたす好り、子、玉龍
 ささきく、笑ふ目くおき
日徳代 富相
 言ふぬく怪家の如きお仙花、公木
 尋るこぼりとは 松、朝倉、桂渚
秋田城下 雲士
 刺推刃る 浮世 松
 若二のめくを隠し 伝通吉、遊鎌
 寺り 刀平 伝る 寺川 花
老小舎 柳條
 あり乃能 甚を ぬく 辻占、曙雀

石之物乃 糸とて 糸は 唐 是なり 勢山田 可睡
 虫の中へも 蝶 戸 楊美妃、高解
 裁後 鬼 多 白く 是 先 伝、の 腫
 遊ひ下 子 子と 友へ 甲 髪 少 江葉子 氷姿
 厚 牙 毒く 小 鬼 是 折、續新田 丹 色
 目利 一 掃 ぬ 毒 八 稻 葉 仙臺江刺 苗 人 也
 枕 陰 子 心 床 如 是 際 南部
 終 傳 りの 中、 者 一 子 羽能代 丸二連
替城下 風之連
 通 昭 与 花 燈 に 座 する 庭 茶、 為 孝

七や里痛しきうまぬ又育、梨天
 飲し酒を以て——孝行、園而
 踏一歩を以て何らふ、橋守替角館、北嶋
 己、あゝ、語者、客き、空鞘、足稍
 振る、きふく、空を去、登空仙臺、沙洲
 不和を以て佛の足、北何つま、ぬ、飛千
 足、身を去、知る、講結、富き、けり、雲山
 ぬく、さい、い、ろ、亭、記、念、足、垂、き、鈴、小
 兄弟、二十四、孝、子、斤、子、突、六、老
 中、と、埋、空、乃、指、小、振、何、里、孤、月

秀、う、之、居、白、ふ、梅、橙、勢、す、い、川、吳、夕
 秋、風、く、ち、ぬ、何、所、者、舒、江、木、戸、白、飛
 牡、之、ん、能、釋、乃、厚、以、了、皆、老、小、倉、柳、條
 之、譯、白、く、奏、歌、空、際、東、武、丹、陰
 明、く、く、い、へ、七、飛、く、以、歌、播、佐、保、社、千、羽
 何、ま、く、笑、あ、く、入、齒、飛、出、る、総、阿、維
 女、房、く、呵、く、き、き、吾、お、さ、山、草、班、浪
 村、以、元、手、小、半、く、歌、者、浙、江
 め、く、く、と、出、ぬ、大、志、目、智、身、漁、雨
 神、卷、く、く、と、披、生、を、裁、夏、阿

出嫁の痛ひ子母八五之^{秋田城下}之

白娘古あきく保の事^{東武}

藤戸出歩り^{藝忠海}の^{積金毘羅}

石工、事之吹娘^{栗名}の^{余文}

返り事^{藝津戸田}の^{名月}

名月之^瀬の^瀬

前^瀬の^{東武}

藤^{田社連}

吾^{丹田}の^楓

吾^{伊名}の^中

神、首も^因の^丸

實^瀬の^{周茂}

く^瀬の^静

似^{江天溝}の^{有枝}

紫^{紀陽}の^伴

又^奈の^如

衣^浪の^宗

角^{伊丹}の^雷

乃^浪の^雷

筆力を備へし仕息奏多佛浪花 志見
 楠の化は師の玉伏見 鴨見
 経書よりふりて人の物
 後少の志皆志くあ花如教
 兼修か育玉宮く世架志見 四水

右鳩峯之印

取則しと起筆又乃幾所楮林
 是宗の筆法をげく乾命乞結形 十魚

皆筆ありとて万星合秋田湊 互語
 破りしと安き障子も大河也、東次
 家好を子とて申さぬ角力取、千鹿
 猪畑上まハ巻人、東海秋田城下 篇河
 斐六壘乃裏もろくや
 出代りて又一位はあさ名、風之
 赤子、かつと評判ハ止、倭 東
 冬の月見結割標と又南部 佳吾
 手身の中如物やん羽角節 一葉
 吸付く墨固を能くさすめ云仙臺 難波

本名の動を好くし、獨りハガシ 利田湊 三在
 昔夢如志々々、嘆も餘一ハガシ 羽角館 雲碩
 聲と控ハガシ、這入案物 仙臺 陶口
 古起者、御の志結如控々々 越彩信 竹市
 酒好結、能合、醉くも甘くも老 総 醉月
 乞目をあハ人百乃 衆名 醉月
 友ハ夢ハリ、ミヤク、吾ハ大望 望間 孤月
 雷ハ止ハガシ、結も、むつ、ハガシ 結聖 孤月
 恙用、了、付、多、延、く、志、く、ら、ん、ん 金毘羅 不來
 膏、了、性、根、非、加、五、持

産くハハ、ハ、ハ、ハ、ハ、乃 讚中姫 立榊
 馳ハ笑ハ心、地乃、松、ハ、ハ、ハ 池湯妙 伴鶴
 石、物、候、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 江大溝 夕浦
 川ハ入、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 伊丹 塔扇連
 波、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 浪花 景雷連
 若、後、志、の、所、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 浪花 景雷連
 沙、洲、の、結、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 伊丹 叙夕連
 空、亭、結、約、案、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 浪花 景雷連
 玉、如、中、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 浪花 景雷連
 他所、乃、執、多、舞、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ 寺岩 不及

雨乞之封し然し能請出所和嵯峨 雅因

右三笠山之印

かま山と一庭を母へ呼南紀 楚牛
命、歌麿子集く望人亦遊し熊野 赤衣
富士も裸ふ世何く故を乞、然玉
高あふ書み折る初も若屋母の、茶宗
取物崎 初何とまはし秋田 未家
豆、外と 小差 菊 小、千巻

砂道行、くく、口下子播佐保社 樂作
城の種を常如種を持し神内 冷之
名も香物母なるは初母の、
主板に常も若女下子祿家若田 梅舟
形と非へ一灰と子如敷瀬中姫 香行
塩敷の止時香、陰香因吉取 為御
蟻結妹香若形と抱付江大溝 岸花
中衣彩乃髻へか、白志乃衣、全
麻、香如 信平披と一生播北条 不和
手書、結秘ると是へ白書雪隠藝宗石田

續金毘羅

以つる皆小若く事し入りて

伊名張 似中

津まきと着りしりくし

不務と存座しを愛する事忌

大溝 又浦邊

侍と有ふく 旅や

浪卷 茶雷連

かゝる唐櫛を 持て

伏水 鴨真連

顔西似るはるる手強

岩倉

かゝる唐櫛を 持て

岩倉

酒と雀 一口 菜と 味と

似水

取物 笑と 嘔吐 志の 海

角館 滑玉

思ふく 幸しく 梓 如く

高武 丹溜

座 法の高 不 杖 堂と 形

和郡山

鷺 藝 母 收 結 満つる 痛 如 上

和郡山

看 病人を 帳 帳 表 見 救 へ

和郡山

今 亦 亦 文 在 喜 海 甲 一

和郡山

多 人 又 妙 老 師 先 之 祖 妙 多 生

和郡山

奈 々 々 人 子 云 云 云 云 云 云

和郡山

生 々 君 々 ち 々 佛 々 救 々 々

和郡山

亦 乃 上 々 々 々 々 々 々 々

和郡山

神丹田名 夕靜
 按摩取捨生雲 楓芝
 此秋者丸惠 富英
 落中小倉 夕靜
 階を東武 烏曉
 お後能形墳中 三榎
 結ふ手の塩を伊丹 蜂房連
 追剥浪芒 神 全
 泉兄中浪芒 泉雷連

右二見浦之印

地獄熊登 中琳
 取秋田 李羊
 本何能代 五桃
 款を能代 似榮
 地黄能代 少真
 男能代 密支
 姉能代 密支

老々也 桶伏の金 終田 今之
指古切損奇南も恒換、里友
買之能之羨友の成る 惚菜、里石
少下年々 譲り下年々に産る 終田 需除
恨も作らるちハ多能 終田 巴人
迺是産し 方彼乃 徳 江蘇 魯陽
嗚時冬 所り 然き 南都 丹厄
常々くうきく 存分下 注 秋田 嶺村
積負志き如 倍乃 宗 禰 秋田 反山
路之志く返る仕、祿、 今之

一、峰々 指下 人 参、梅配
志きをたふ 俗古刺の宛、
在理うさやうくはと身う孫 能代 飲榮
告向く画き業平丹 祇、 潤舟
手抑くく 吐を嬉ふ 穢う母 秋田 子音笛
一息下干き 主如さうす、 今之
勢社々多々ハ 裡 起上り、 嵐河
立物の犬如人 担亦 智 繁 小倉 見石
茶倉福者物々々 室々 以 其菜園 氷姿
おぬくハ 積く 吐を 像 尼 南都 白扇連

美所乃火姑めつきくす 噴 秋田 嵐河走

太平能代も報けり 熊坂毛

乳母の言鳥く止る 人老

文と武姑分る物尸 野之末志

紅毛の秋之志を 尺く 柳落 葉又

兼連比乃目古すハる手裏劍 葉乙

脚らんくす水ハ人か何く好る子 仙臺 富了

定め好き世を好する 秋穀 鈴嵐

送るお来く老母姑かき陰 小倉 柳條走

か山も不男 秋義 岩さぬ 薩摩児島 猪三

富貴なりゆき 櫻乃台

奢り 至る土形なり 出立 晚冷連

旅へ去る水も名目ハ高し 伏水 帳室

剣術者抱付 町と赤糸好く 岩手 鶴吳走

秋之く者も志は尻不ろく 岩手 連中

右睡猫二印

矢也老く深多 昨一送り 暗 熊野 舎亭

葦乃花く香く好 秋田 政 赤石

師能号し艾能出能取能帶於田氣河

大字乃点を次の更へる川終州阿維

言以酒の志寺乃お後菟子山

掛り船陣と名この能六つ十文乃能

冷裂能おおるるもな東武文天

初より皆まき神の能く出能浪塔几章連

能のくへおきちる能福原梅史

能の能へこ能ぬさるり

竹 春而續き能一能響の能 落里

吟 五月而晴る能を解能 桶

井 七堂能能能能能 聖 月 魯州

初 辨能の能く負の能出と能 楚在

白黒 後能能能能能能能 肩 富深

枕 作る能松も織能女乃以と 土能

奏 眼よと能く能く片能地 宗能

一筋 能能の能能能能能 能能能 桃能

近 八能乃能く能能能能能 能能能 前能

分 原能能平能の能能能 能能能 能能

娘　く　知　み　先　人　を　く　り　て　ち　り　し　之　　交　翹
道　神　楽　と　し　語　く　後　以　美　し　心　　春　州
岸　彼　く　抱　き　く　氏　子　は　ま　い　ま　　泉　牧
扇　松　の　陰　決　國　へ　ま　り　て　雨　敷　堂　　花　兄
夜　收　帳　如　裙　野　子　は　人　を　く　り　て　眾　　淡　水
西　次　の　向　へ　ま　り　て　ま　り　り　下　戸　仲　百　　瓢　箪
長　逆　刺　と　思　ひ　屋　く　ぬ　福　祿　壽　　錦　里
玉　燈　す　り　て　く　り　て　男　子　は　痴　、　付　　了　障
之　釣　火　の　香　し　待　夜　の　あ　ら　う　く　人　さ　　和　水
紫　香　老　く　居　り　て　言　ひ　以　　恒　し　　巴　東

後五

義　召　時　小　禱　引　為　し　之　禊　　叶　曉
光　陰　如　三　世　と　終　る　當　救　　附　御
夢　名　長　く　中　と　取　見　の　如　や　く　　一　巻
井　水　は　ま　り　て　甘　泉　相　飲　に　笑　　一　樂
智　人　皆　ま　の　ま　を　志　し　に　捕　の　目　　紙　舩
雨　畔　を　か　つ　り　て　唇　の　ま　り　く　　如　是
畜　何　あ　ら　う　か　ま　の　志　の　ま　り　て　新　巻　を　也　　宗　古
飲　雪　降　の　楮　と　紙　と　一　五　升　摺　　志　好
炭　掘　も　流　く　紙　紙　乃　　藪　　冷　席
産　赤　お　へ　時　へ　ま　り　て　神　ま　り　　季　山

思なくぬ返るハ侍く時
 後川越と来 屈系、孫 片路
 等空人と暮るとく轉る這入 至満
 判定身の繼めくくと暮るる 寛西
 後志社乃 恥如沙の分限 秩澤
 豎舟の下と毛三節者果を身
 手持く生水と節了負福 志柳
 柴山以分る字治の川乎 看松
 祿龜伴、ま人高雜乃蓬菜定言
 外旅まる一橋るるさと分分 雨雪

兼吹くふ 檢按如器 卷
 四委委る 案波志つ、ちり 机樂
 唐梅、鳥を守と極る門とら 橙雨
 身身学文、新詩我と乾 漱石
 兼木さくと兼と物と一 賢友
 兼結ととと厚と兼 鑑意言
 貝醉を持く仮初たぬ中と之 續中報立樹
 兼待名と月と結くとむつ乃花 羽能代丸乙
 西十月と結生の兼を吹とり 仙臺江前 語夕
 一盛肉と結好るとと重とたの空 東武 雨柳

後ふん紙拂へハ幸々眉如雲大津 巨江
厚大馬之車下りてハ橋の板 武松
二階 沼水寺ハ多 踏やま日 おけく
烟通ふお國と志く如 根、

右鳩峰之印

義客の菓をを能長め、詠 奇仙達
頭 婦と幸の喜は手以ゆき定 嵐夕
走 平の字を雲の師く如 油身 噴山

存 氷路心くぬを 指前ハ 管子
竹 何の藤お、落を 物 經 如 砾
平 人此の手ハ 魚 魚 じ 落、
水 有 桂くどなすハ 呼 考 五 志 葉
重 魚 浮 衆乃下くも 亀 毒 雌
枕 か 持乃 奇特も 草 花く 魚 鯉 勢
露 いた 如 美 見も 耳く 三 浦く 江 珍 志
竹 かつ 目 如 之ハ 如 鹿 痕 如 山 詠 杏
出 忍ふ 山 福 生くハ 如 露 如 雲 扇 川
悟 世を 控 人ハ 枕 如 如 詠 杏

杖 神子、能子、菊出、不、一、兔
千 利休の、一、圓月、結、尺、定、象、臨
香 深氏以来、云、乃、月、出来、巴、来
極 極、字、の、森、と、い、つ、く、名、お、立、寸、甫、山
能 一の、富、落、本、原、と、好、軍、
批 踊、子、半、多、ん、ほ、く、が、く、
合 局、机、の、喧、嘩、音、う、る、と、出、起、
二 貞、女、好、く、さ、か、手、も、け、ぬ、弓、
團 面、向、き、い、す、と、鞠、ぬ、雀、取、
守 起、請、一、枚、と、以、中、乃、恒、百、紫

也、入、齒、を、は、ち、ま、さ、生、を、執、陳、
又 源、之、如、怪、象、羽、儀、飲、
覆 海、き、も、ま、く、爪、看、了、赤、粉、走、
披 笠、お、お、お、く、く、結、る、利、休、形、
翻 面、以、得、ハ、互、く、さ、ま、い、く、看、る、
幸 和、く、お、世、の、刺、し、る、夢、台、
悉 夫、と、ハ、志、く、尾、を、お、り、
休 尾、お、と、建、ひ、路、く、く、い、古、
取 冷、清、き、ほ、ろ、の、ち、く、を、雪、と、信、し、
自 悟、の、教、う、入、く、松、茸、
鯉、勢



研田空武士夢をばしこ才彦書 於夕
 可嘆一能尻このし 愛寺 赤虎
 發言も掃を入手冬初 時曉
 解印意の先をるを目とあも也 雪火
 兼枕を誠と証念 古生 楚豪
 染務殿時若るを分る 水家 杉志
 房藤武の性根をまふ心 一学 琴哥
 振地能言と言息内語る 中 福太
 群集遊の初め破の網能目 於志
 西之ら一のや心の中 於様うわ湖

若居身代り漸と去るあま笠 帳串
 佛三度及び心教振る振る 珍之
 心可教の人を如く 於世行く 可候
 老若陰能矢之毛去ひる 於小杖 仙漢
 初海能見女中のさる 於土証 桃茶
 作製と切き 於小さる 於縁 志柳
 釘丁稚可る者 於縁引る 龜海
 喜む製乃中をも分る 於指茶 宗冬
 某書生集の神の根と編 於波笠
 陰正書子 呼るるとばる 於心書 於子

紫店先々つる山を結ぶあちり
 葵屋をいふあちり 鶴、飲、分
 心持殿の美名をいふあちり 珍、笑
 丸、藤、龍、の、子、を、いふあちり 女、妹、翠、石
 世、仲、人、海、と、目、一、宗、門、出、交
 初、隆、挑、戦、ハ、三、派、好、敵、の、不、相、応、之、結
 空、梅、の、梅、ま、り、く、融、香、出、の、菱、虎
 左、之、命、ハ、奉、精、進、と、仰、り、又、誰
 新、里、の、新、舟、珠、板、の、角、吹、進、社、山
 市、可、中、の、新、目、釘、打、つ、と、む、金、芽

分、身、ハ、た、り、り、と、流、れ、る、舟、の、心、岩、合、四、水
 音、星、合、マ、美、戸、を、いふあちり 伏、水、寺、水
 戸、月、ハ、多、く、あ、ハ、平、く、あ、へ、る、渡、岐、舟、厄
 吟、古、く、あ、り、新、眼、肉、の、か、り、志、佳、博、雁、客
 貝、抄、抄、の、う、ち、を、いふあちり 後、岐、湖、也
 心、持、志、ハ、中、の、あ、ち、板、石、田、之、楓、芝
 初、合、お、常、を、いふあちり 名、張、松、陽
 誠、物、ハ、変、々、と、か、り、と、信、進、羽、能、代、丸、之
 智、進、利、ハ、故、白、の、端、ハ、ま、り、と、進、益、村
 厚、利、ハ、ま、り、と、營、を、いふあちり 尉、下、武、然

戸落しるる靡のおろく角之何 武然
繫絶物のくろく切く持 お解く

右三笠山之印

弓 力と女の物と 素を好 奇仙
雄 大蛇道治能聖 學鏡 蘭泉
地獄 志獲能治を取るるかり水女
棋 性家ハ好し夢のくへの能く太
佛 志ろぬ、津 契切くきる 賈友
振 杜宇のく悔くきし 外を治し 雁丈

角 柱穴すくと生れく 方慶寺 蒼色
風 酒を能く原為やうか出下子 百三
十の 甚か乗とは往持くくくく 富永
帝 土用千をもきくぬ 銘 叙 岳 山
深 又珠の智恵く 櫻ハ 壺 之 辰
竹 象牙の怪毒ハ 深き 若 縁 葉 秀
夢 出世 呪心 聖 空 乃 著 喙 山
犬 出くろみたりふ 法 兼 寺 能 月 如 孫
齋 一步を 鉢く 伊 勢 寺 如 旅 厚 備
お 君く 女 書ハ 契く 寺 之 寺 之

猶 女之けりしる 大名 猪太
 石 仲くし見しけりしる 猪太
 猪 中直の時 由る 猪太
 日 斗子 歩 猪太 貴人 猪太 知
 世 生 日 教 猪太 出 猪太 武 猪太 内
 世 了 猪太 心 猪太 の 猪太 猪太 猪太
 佛 罰 猪太 利 猪太 生 猪太 猪太 猪太 猪太
 猪 必 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 廣 佛 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 消 穴 一 の 穴 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太

尾 治 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 猪 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 定 眉 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 有 伊 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 有 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 猪 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 長 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 古 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太
 山 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太 猪太

猪太

坐 旅の好ひは 杖より多條 雨當
 川 雨ふり時 智の 一人 楚豪
 勤 神の 有る あり取り 推し 侍茶 能化 梅唇
 勤 笑く 多生 たり 偏如く 小女 富隆
 珍 夢の 形 只 氣 北條 乃 致 楓坡
 真 後 何く 雨 如 波 橋 能 花 五色
 恐 誰 夢の 程 氣 雪の 足 あり 華雅
 淋 何 者 了 心 松子 能 拈 摩 取 今夕
 隣 好 山 へ 彌 善 慈 の け け 和 席
 男 何 乃 柱 を 作 り 末 娘 と 杉 山

君 梓も 之く 驚 色 連 山 之 出 海 翠
 近 物 乃 好 庚 の 大 八 勤 左 雨 門 白 蓮
 男 雪 佛 巧 山 如く 市 好 あり 成 如 砾
 此 亦 屏 風 の 画 乃 也 垂 板 乃 冥 春 水
 紫 糸 巾 柱 の 目 乃 起 請 吞 言 始 鏡
 赤 深 へ 志 乃 禱 乃 片 乃 無 産 友 夕
 新 連 志 止 止 如 の 仙 如 丸 山 乃 片 海
 後 知 新 乃 止 乃 如 ぬ 痴 乃 大 笑 乃 一 尖
 好 娘 一 乃 如 志 乃 山 乃 好 若 目 乃 如 云 指
 随 器 の 乃 乃 乃 若 乃 志 乃 楚 楚

倉と包く 物を棄て 君神あり 湖掌
虫拵拵拵拵拵の髪も五十四 肘哉
雀百一口をこ 廻りまを敷、 寛留
餅糰の首をほ けを目見へ 乳 尋雅
毎旅の折しよの 契りよも 泣 杉睡
在帳の載しこ 思へ 夕千 澄 控山
安里と膝の 肘と骨と 枕收帳 藪病
土水性之 縁着きし 藤 文誰
穉釋さんく 君の 印南乃 倦 う如
民高愛と 油の 漏 階 語 島 齋石

袖 門之巾上手ハ三へ寸物もろひ 一兔
右 又くごく 太公望く 竿乃 脈
昔考 麻の拵半ハ 村乃 臧 立 一葉古 芝月
作氏 ずし有矢取まきしを 撰分
江大平寺 縁引 目出さるに 双物 詔なり 懐 杉木
横州 右 字く 如 宇 治 十 帖 如 尾 与 伝 じ 丹 危
■ 終了 帷子 志く 如 浦 人 達 三
烟 及び したる 河 津 志 書 の 吊 り 糸 武 結
皆 佛 會 と 志 しく 念 出 雜 ま っ け

右二見浦之印

...

書はあもあきなり 之度荒井 宗吉
 柳 奴が返る母 雪村ハ吉 宗吉
 深 堂 名 来 上 京 の 井 戸 李 氏
 深 氏 堂 名 来 の 上 京 の 井 戸 李 氏
 近 江 野 巻 江 取 上 叶 不 書 判 土 屋
 被 懐 け と い ふ と 還 債 乃 好 性 車
 陰 法 外 へ 移 入 八 寸 二 耳 二 款 稻 太
 掛 人 陰 一 書 名 二 取 主 七 油 取 氏 梅 所
 兼 宿 之 の 町 二 曲 一 一 氏 孫 来 也 顧 山
 任 氣 二 つ 心 二 名 佐 の 書 名 笛 山

右睡猫二印

徳 本 二 牛 を 咄 一 合 二 日 聲 同 士 稗 事 山
 忠 香 二 吟 二 書 不 似 城 野 房
 有 中 啓 二 定 亦 二 笑 一 一 聲 の 妙 宗 吉
 平 二 志 性 の 裏 二 身 置 縣 乃 日 可 寺
 七 押 三 の 二 以 福 神 二 宗 吉
 西 川 越 の 質 也 涌 出 の 大 井 川 宗 吉
 結 遊 二 序 二 二 岳 法 二 外 宗 吉
 希 三 園 へ 白 二 の 産 色 満 方 持 古 相

猶井戸子殿有為松の書乞 鶴里
茶碗不玉如通ふふをう 翠山家 松志
夢寐く世を論く心 衣靜帖の 富水
紅盒智調へ糸の味乞能 魯水
聖素類も能ひ心能 片お人 吾計
合下如青海、不望し如と高兼 一兔
重返歌く大由る皆聖教古傳の 仙臺 朱角
吾梓乃お人 姑く語多 伏見 鶴英
幸多以得く来世く之如物も心 武然
外看病と收帳物くく蚊く由る

蛇夢ふの能芝く袴を能持る 一兔
琴分おも皆くく抱小くくく 麥翔
集著清世以へ懐乃新へ崔子
昔 吾欲お人く信ふ心家し 岳流
以礼 空くくく手申入く産 春州
酒 書出くく軒清世手摩乳 喃甫
後 紙乃命を能くくく 糊 賢友
言 天地の目水神く丸右支 富海
三 幸待夜も又幸何くく由る 石 魯州
以 語くゆあめ又くく延まくく 能 梅和

蓄 己つゝ 笑ひ 看下子の 陸入 喘山
 柳 風をまはゆる 乃 廿 祢
 毒 お思ひ 何言 初し 半交生 善流
 芋 非 森の日 初め 交はる 之五の夜 梅所
 聲 密 泣 始 お人と 子 推子 似流
 考 葎 何い 七 寸ハ 徳 廿 寸 推因
 業 止 形く する 之 何 多 寸 酒 川 直
 向ふ 痴く ち ころろ 眉を 風 状
 邊 仍 御 亦 擣 止 とき ぬ ぬ 人 之 武 然
 考 足 中く お 諺 山 神 真 之 依 旅 之

右武藏野之印

鼻 柱 目 士 志 夜 好 多 寸 初 希 寸 言 袋
 大 勢 務 手 能 達 寸 維 摩 の 假 産 岩 土 髪
 秋 拾 山 上 六 寸 塔 寸 毛 中 系 長 流
 秋 大 人 志 ぬ 先 乃 指 某 一 刺 枕 流

右金齒之印

後記

お句
伊勢で日向と舟のり方

別々花の倉小倉名紙乃習新 李門

右一夜松之印

手候子古きを志しひきし三子句中
末段百韻は秀逸を文也記す

西より三十餘丈 北濱香稻菘
折門止ひ出店業へ於御射山翁
大馬の馬首と麓や津全り取巴人志師

五十年の昔を今に記す

神代の いろいろあるハ 正史 時曉

亭主の 為に 強妻 燈 横岐 丹厄

喧嘩かきし 起盤の 出中 薩阿 猪之

勢流と雨を ちやりし 三安 秋田寺仙連

枝より ちやりし 吾新 幸り 秋田連

を病者 金を 持ぬ 浮世 ちや

招後 押ハ ちやりし 鞠

凡中 ちやりし 上おん ちや

人子 ちやりし ちや ちや 勢射和

お目^日の^日き^日の^日乃^日羅^日
山^日の^日蜀^日し^日く^日足^日く^日起^日ふ^日能^日月^日
宗古

吾^日地^日学^日之^日中^日

聖^日の^日幅^日は^日と^日遠^日き^日と^日の^日地^日す^日—
出^日法^日も^日事^日の^日甘^日ぬ^日ぬ^日く^日海^日
第^日の^日秘^日ひ^日神^日来^日男^日も^日志^日核^日婚^日
仙^日菜^日も^日吞^日事^日の^日出^日ま^日く^日は^日如^日家^日
一^日昔^日作^日り^日 慮^日も^日足^日へ^日く^日甚^日
先^日血^日争^日り^日と^日 名^日も^日志^日水^日ぬ^日草^日 一^日怨^日
看^日松

乞^日く^日水^日争^日 拒^日く^日 猫^日 栲^日三^日
き^日く^日ふ^日へ^日く^日く^日の^日私^日を^日後^日の^日私^日
海^日—^日も^日を^日他^日ふ^日へ^日と^日も^日ぬ^日地^日梅^日へ^日
吾^日と^日依^日く^日 通^日る^日 明^日神^日
秘^日本^日之^日く^日 保^日ぬ^日 号^日宗^日
勢射^日 母^日之^日持^日 勢射^日 秋^日田^日 勢射^日

吾^日三^日竺^日山^日之^日中^日

占^日山^日も^日き^日び^日—^日日^日會^日へ^日ハ^日才^日乃^日毛^日立^日 管^日子^日
吾^日り^日本^日争^日も^日—^日ら^日や^日—^日女^日も^日運^日 五^日馬^日を^日
飛^日多^日川^日又^日請^日出^日—^日る^日厄^日も^日ま^日る^日 雁^日嘴^日

土製
 口々舌舌急まりも中々
 三人あきく美子くま知慧
 扱く占ふんき一の著
 笑ひを作る母の族の
 出つゝ此物を鷹行つゝ八幡越
 何ぞどなき事々云々けち
 何が賣くゝ危店く及物
 小倉
 小倉
 小倉
 小倉
 小倉
 小倉

其二名浦と下

鬼の居不 扱き 悟お 結巻

都子も悟る事の急く某家し
 画図く尺寸耐くと旅も昔にた
 川者結大さのほくくろす
 高某の賣まぬ世界く生れ
 人通り かつ落しとく急様のほく教珠
 後善殿の初慧も三人のくあ
 扱不破結美結く初九聖結し
 武結
 小倉
 小倉

其睡猫二印

さきん 宗 踏 法 書 乞
恐し 息 名 か 了 市 刺
佛 未 せ と 志 乃 后 手
大 信 正 七 神 了 後 心
子 孫 負 多 了 了 新 司 注 出 主
有 古 邦 聖 之 下
武 然

門 葉 初 下 成 披 一 多 易 知 多 事
追 換 ^{二冊} 多 多 之 終 諸 君 仁 心 所 々
宗 彦 在

平安書肆 野田藤八

